

せいしょういんさんもん 清勝院山門

昭和46年3月16日 八潮市指定有形文化財（建造物）

●八潮市大字八條 1763 番地（清勝院）

清勝院は長享3年（1489）寂の秀幸が開山した真言宗豊山派の寺院で、江戸時代には末寺10か寺を有した本寺であった。

清勝院山門は、4本の柱で屋根を支える四脚門で、屋根は瓦葺きであるが、創建時は、茅葺きの屋根だったと推定される。本柱上に冠木をのせ、冠木中央には大きな板墓股を置く。墓股（社寺建築で荷重を支えるための部材で下方が開いて蛙の股のような形をしている）の規模は大きく、墓股や肘木、拳鼻の曲線がゆったりとしており、室町末期から安土桃山時代の様式を遺している。

この山門は朱塗りの門であったことから「赤門」と

も呼ばれ、かつて一般の人々の通行が許されず、役人だけが利用したといわれる。そのため門が開かれることは滅多になく、「開かずの門」とも呼ばれていた。

平成11年（1999）に中川河川改修のため、現在の場所に移築された。



◎公開の有無：常時公開

- ◎その他の文化財：絹本着色虚空蔵菩薩像（非公開）
絹本着色理趣会曼荼羅図（非公開）
紙本着色不動明王二童子像（非公開）
木造不動明王立像（非公開）

◎交通案内

- ・八潮市コミュニティバス北ルート「和平橋」下車すぐ
- ・草加駅東口または八潮駅北口からバス（八潮団地行）
「八潮団地」下車徒歩2分



本図は電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成したものです。